

令和6年度第3回学校運営協議会報告

県立浜松特別支援学校

1 日時 令和7年2月27日(木) 午前10時から正午まで

2 出席者

(1) 委員

- 特定非営利活動法人 くらしえん・しごとえん 代表理事 鈴木 修
- 五島地区自治会連合会 会長 鈴木美佐男
- PTA会長 渥美 祥子
- 浜松学院大学現代コミュニケーション学部教授 笹原 康夫
- ㈱日本マクドナルドフランチャイジー 株式会社フロム東海 代表取締役 山田 晴茂
- 南障がい者相談支援センター センター長 大場 拓弥
- 浜松市防災学習センター センター長 藤田 具克

(2) 教職員

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務課長、進路支援課長、情報教育課長、CS担当

3 報告

(1) 令和6年度学校経営報告、保護者アンケート結果報告、コンプライアンス委員会活動報告

(2) 令和7年度学校経営計画説明

(3) 質疑

- ・学校経営に関する評価について、教員の評価のA～Dの割合を知りたい。

→教員の評価を踏まえて評価している。改めて、教員の評価の割合が分かるものを送付する。

- ・教育の原点を見る思いで、児童生徒一人一人の人権を大切にした教育活動を行っていることが分かった。保護者アンケートについては、保護者が遠慮していないかと思うくらい保護者の評価が高い。

→アンケートに限らず、保護者が意見を言いやすい学校でありたい。聞き方を工夫すると共に改善の意見に対して真摯に向き合えるよう、今後も意識を高めていく。

- ・教育改革が一気に進んでいる。社会の動きを知った上で、指導にあたる意識を持ってほしい。また、経営計画では削るところは削り、重点化して取り組むことも必要だろう。

- ・保護者アンケートの「進路の情報を得て考えることができたか」という項目について、B評価が高等部で若干多い。進路指導について、具体的なことを知らない先生もいるということ先輩の保護者から聞いたが、そのようなことがB評価に表れているかもしれない。

- ・個別最適な学び、協働的な学びについて、特別支援教育では、既に取り組んでいることという議論はないか。具体的にどのように授業を変えているか。

→授業づくりの考え方は変わっていない。本校の子どもたちは夢中になって活動している。

これまでの私たちの取組の精度を上げるという考えに近い。

- ・防災マニュアルの見直しはどのように進めているか。

→マニュアルの見直しは、防災課を中心に取り組んでいるが、掲載する情報の選択や見識者

によって予測が異なる等により、なかなか難しい。5分以内に3階以上へ垂直避難し、まずは子どもの命を守る指導を行っている。

- ・コンプライアンスについて、企業では第三者による安全な告発の仕組みがあるが、学校はどうか。

→県教育委員会には通報を受け付ける窓口はある。県教育委員会なので敷居は高いかもしれない。何より先生方が言いやすい環境が大事かと思う。

- ・保護者アンケートの評価が高いということについて、保護者の自由意見を引き出せると発言しやすくなる。

- ・三校連携協働活動について、ねらいと今後の展開を知りたい。

→三校で地域のために何かできないかということでスタートした。生徒会交流は相互に学びが多い。生徒の気持ちを育てながらいずれ地域貢献活動につなげていきたい。

- ・海岸の清掃活動に江之島高校の他にも江南中学校や砂丘小学校を巻き込むとよい。江之島町自治会も協力したい。道路も整備されたので、交流時の移動もスムーズになる。

- ・私立高校の無償化が始まっている地域もある。そこでは、手帳を持っている生徒も受け入れている。しかし、卒業後の社会に出てから困難さを感じている。そして、その地域の特別支援学校は定員割れしているようだ。

- ・企業側からすると、特別支援学校を卒業した方は挨拶や仕事に対する真剣さ等、姿勢が素晴らしい。特別支援学校の意味は大きい。

- ・保護者は遠慮しているのではないかという話があったが、保護者はもっと、主体的に意見を伝えていくとよい。将来にわたって子どものことを伝える力が親には必要である。

(4) 熟議（各グループの報告より）

【今年度の活動の振り返りと次年度のテーマ検討】

ア 学習・防災応援隊グループ

掲示板等で教員へ応援隊の周知を図り、実際に応援隊の活動を多く経験することで、教員が応援を受けることに慣れていった。また、学生ボランティアも大変助かった。学校側も応援隊も Win Win の関係になっていくことが大切であり、そのことで地域も子どもと共に育つことが

理想である。次年度は、応援隊募集の募集地域を広げることにについて取り組む。

イ 進路・福祉応援隊グループ

実習評価表の見直し、巡回指導に関する研修会、先輩学講座に取り組んだ。実習評価表は使用しながらブラッシュアップを図り、巡回指導に関する研修会や先輩学は、福祉やグループホーム利用者等、テーマや卒業生を変えて実施する。さらに、保護者への進路や福祉の情報発信の在り方や、高等部の販売会販路の拡大についても取り組む。

4 連絡

令和7年度第1回学校運営協議会 令和7年6月3日（火）午前10時から正午まで